

情報連絡員報告総括表(令和5年10月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・業界全体の売上は、好調だった令和4年に比べて約3%減とあまり良くない。値上げが続いたことも背景にあると考えられる。 ・材料価格の高騰やエネルギー価格の高騰などが続いているため、3回目の値上げを考えている事業所もある。一方、競合他社同士の相見積の話も出てきている。 ・消費者の健康志向は益々高まっているため、味噌醤油をどうアピールしていくかが課題である。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格の値上がり止まらない。 ・消費者の節約志向により、低価格の商品しか売れない。
	豆腐製造業	↗	↗	↗	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・食品スーパーをメインに、学校給食にも供給しているが、同業者との価格競争が厳しい中、原材料や包材類、燃料高が重なり、採算が取れず厳しい状態が続いている。
繊維工業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連は堅調に推移している。 ・価格転嫁は円滑に進んでいる。 ・人員不足が課題である。
	絹人織織物製造業	↘	↗	↗	→	↘	↘	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・化合織物関係の企業は、退職者の補充のために人材を募集しているが、応募者がなく苦慮している。 ・絹織物関係は、需要の低迷が続いている。
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出向けの成約は進んでいる。 ・エネルギー価格の高騰は、収益をかなり圧迫している。
木材・木製品	一般製材業	↘	↘	↘	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・木材利用の大半を占める新設住宅着工戸数について、前年同月比で富山県は33.8%減と大変厳しいものとなっている。 ・物価高騰により、住宅を中心に建築需要の減退が起こっている。 ・県産材、ロシア材とも入荷は順調だが、需要は回復せず低迷しており、客足の悪い状態が続いている。加えて電気代、運賃、燃料代、人件費などのコストアップが要因となり、木材関連事業者の経営は非常に厳しく、その状況が継続していることから、2社の木材事業者が廃業することとなっている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	→	↘	・中国経済減速の影響は大きく、全体的に受注が減少している。当分は現状維持が続くと考えられる。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	→	→	↗	→	↗	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて経営実態が回復傾向にある。 ・材料費の高騰、溶接作業に伴う電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高による賃上げ、価格転嫁等の課題が山積している状況もあるが、比較的安定している。 ・インボイス制度の実施により、各社、経理事務が輻輳している。
	めっき加工業	↗	→	↗	→	↗	→	→	→	→	・価格転嫁による販売単価の上昇によって、増収傾向にある。 ・電気代の高騰を見据えた価格転嫁であったが、電気代高騰の影響は少なく、増益となっている。
一般機器	金属工作機械製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	・受注状況について、軸受、工作機械は前月及び前年より増加しているが、ロボット関連が大幅に減少しており、全体では前年より減少し、前年同月比85.72%となっている。 ・現状、ロボット関連の低迷に伴い、売上高等は工作機械関連等でカバーしている状況である。
	金属加工機械製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・金型市場の減速に歯止めがかからない。市場が一気に萎んだ感があり、コロナ禍よりも厳しいとの声も聞かれ、これまで経験したことのないレベルである。需要がない状況では対応策も見当たらず、長期に渡るようなことになれば一企業だけでなく、業界の存亡さえも危ぶまれる。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	→	・売上について、前年同月比は減少しており、民生機器向け、工作機械・産業機械向けは低調、自動車向けは横ばいとなっている。 ・顧客の新規開発の動きは比較的活発化しているが、新製品の立上は低調であるため、新規設備の受注が大きく低迷している。 ・円安の影響で仕入価格の高騰が続いているため、収益悪化に変わりはない。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・インボイス制度の導入により、売上事務等は模索しながら進んでいる状況である。 ・ふるさと納税の次期指定に向けた見直しが発表され、地場産品基準改正に関する影響が気になっている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	↘	→	↗	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・目立った県内工事もなく、下期に入っても袋セメント取扱数量は減少の一途を辿り、増加に転ずる兆しはない。 ・昨年度値上げした価格については浸透しているため、売上の微減を保持している状況である。 ・再度値上げを実施することで収支の均衡を保つため、11月出荷分より、セメント売価や組合手数料単価を引き上げる予定である。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・5月～8月の閑散期に前倒し製造ができなかったために、繁忙期に入っているものの受注をこなさず、チャンスロスが生じている企業がある。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	→	→	↗	→	↘	↘		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー価格の高騰や物価高に加え、円安による輸入品の高騰に対して価格転嫁が追いつかず、収益性は悪化している。
	野菜・果実小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・富山卸売市場の売上高は、前年同月比105%、青果組合全体の売上高は、前年同月比98%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↘	↘	→	→	↘	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・各種キャンペーンの影響で、高価でも省エネ家電に人気がある。ただ、キャンペーンの応募はスマホからのアクセスとなり、高齢者にとっては難儀である。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		↘	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↘	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・ガソリン価格の高騰や物価高による消費者の節約志向や買い控えにより、需要の回復感は弱く、ガソリン販売量は、前年同月比で横ばいである。ただし、事業用の需要は回復傾向にある。 ・ガソリン販売価格については、燃料油価格激変緩和事業の新制度の影響から、徐々に下降しているが、前年同月と比較すると約5円超えている。
	農機具小売業	→	↘	↗	→	↘	→		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・個人農業者が減っていることから、売上が減少している。
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・10月は大創業祭や特招会があり、前年同月比で売上は103.0%、客数は103.5%と前年を上回っている。
	ショッピングセンター	↗	→	→	↘	↘	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高に対する消費者の節約志向が強まっており、高くても欲しいモノと安くなければ買わないモノを選別して買い物をしている。

業種	項目	売上	在庫	販売	取引	収益	資金	設備	雇用	業界	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
		高	量	価	条	状	繰				
商店街	商店街	→	→	↗	→	→	→		→	→	・商店街での特別なイベントがなく、客の入りが比較的静かである。 ・夏の残暑が続いた影響で秋物の動きが鈍く、急に冬物商戦に突入している。
	商店街	↘	→	↗	→	↘	→		→	↘	・物販関係の店の売上は良かったが、飲食関係の店の売上は大幅に減少している。10月にしては気温の高い日が続いたことが原因と思われる。
サービス業	クリーニング業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→	↗	・売上が前年同月比で8%増加している。 ・平日の夜にアルコールを飲む客が増えてきている。
	建築設計業	↘		↘	↘	↘	↘		↘	↘	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・10月の自動車新車新規登録・届出台数は、前年同月比で14ヵ月連続で増加しているが、コロナ禍前の状況には戻っていない。材料や部品の供給不足による生産調整の影響は着実に縮小しているものの、現状の受注残を大きく解消するだけの生産体制の構築は依然として厳しい状態である。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢、為替市場、物価高騰などの状況によっては、自動車の車両価格が更に値上がりすることとなり、購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者においては、自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えており、対応できない事業者は扱える車種が加速度的に減少していく状況である。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→		↘	→	↘	→		→	↘	・図面決定の遅れが大きな問題となっており、鉄骨加工業者としては早急に解決してほしいが、一向に改善されてない。人材不足と担当者のレベル低下が要因として挙げられている。 ・鉄骨加工業者には、設計変更など、ゼネコンのムリな要求に対応する余力はもはやなく、適正価格と納期について、ゼネコンと交渉していかなければ死活問題となりかねない。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・水道事業体に対して、各組合で新年度予算確保に向けた要望活動を実施している。
	電気工事業	↗		↗	→	↗	→		→	→	・企業の設備投資需要が落ち着きつつある。 ・公共工事が増加している。 ・住宅着工件数が低下傾向にあることから、年末以降は厳しくなる見込みである。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・軽油価格について、政府の燃料油価格激変緩和事業の補助が増額されたため、前年同月比-1.5円/ℓで推移し、収益状況は不変となっている。
	道路貨物運送	↘		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前月比-9.7円/ℓとなり、前年同月と同価格となっている。 ・荷動きは、前年同月比94.0%と前年割れとなっている。